都市環境への共通理解育てよ

西脇 敏夫
（にしわき としお＝横浜市都市計画局都市デザイン室長）

都市環境のデザインに関与する専門家は，建築，土木，造園，工業デザインなどの各分野に存在し，また行政，企業，設計事務所，大学などで計画，事業，設計，管理運営，教育などにかかわる，といったように様々な立場にわたる。

その多くは，街を構成する施設やプロジェクトなどの「ものづくり」の場面を通じて都市空間形成にかかわっている。そしてそのデザインに対する視野や理解は，分野と立場によってそれぞれに異なってくる。

加えて，そうしたものづくりの事業は，行政のみならず大方が縦割りの関係で進められており，デザインもお互いの関係や周辺環境への配慮が弱いと言わざるを得ない。これら諸要素の総合化が都市環境のデザインにおいては重要になるが，そのプロセスやそれぞれの役割などの認識や理解がさらにまちまちであり，それぞれに未成熟な状況にある。

＊　＊　＊

特にここ数年，景観への関心が高まり，ものづくりに伴うデザインが活発化したものの，表面の化粧術的なものが散見されるなどの歯がゆい現象も生じている。

本誌3月15日号の新潟，大野大橋の記事は，単体の橋のデザインをめぐる関係者それぞれの熱い思いがありながらも，実を結ばなかった事例である。経過と共に関係者の意見が明らかにされていて，公共土木施設とそのデザインにかかわる様々な状況が良く理解できる。

結果としてうまくいかなかった要因は二つある。ひとつは建築と土木の分野でのデザインに対する考え方の違い。もうひとつは事業者（それも公共事業の）と設計者，委員会などのそれぞれの立場におけるデザインのとらえ方の相違である。

一般的には，事業や設計，管理運営などの身を置く立場によって価値観の重点が異なり，デザインの価値に対するバランス感覚も違う。そのため都市空間を構成するものづくりのプロセスに，環境も考えたデザイン的価値をどのように組み込んでいけるかは大きな課題である。

＊　＊　＊

横浜でもまちづくりのなかで，土木や公園などの公共施設づくりに，建築家やデザイナー，市民の参加を得て進める工夫を都市デザイン活動の一環として行っている。それは一歩一歩を着実に歩む試みであり，公共事業の場合は，建築や土木にかかわらず多くの背景があり，必ずしもすべてがうまくいくわけではない。

しかし具体的な実践を通じて，様々な分野と立場でお互いに異なる価値観と世界をもつことを実感できる。その経験によって，都市環境への理解を深める効果を上げている。

このように専門家の間に，都市環境のデザインに対する共通の認識を実感として育てることが，今非常に重要だ。「都市デザイン」は，こうした企画や調整の役割も果たしながら，都市環境の質の向上を図り，特徴と魅力をはぐくむ活動と考える。

その具体的な内容は，地域の自然や歴史，文化などの違いと共に，かかわる人の分野や立場，考え方や性格などによっても異なってくる。制度や仕組み，手法なども重要であるが，実際の場面ではそれ以上に人の要素が大きく作用する。

そのため，都市デザインを進めていくプロセスは一つひとつが異なり，まさに創造活動という実感がある。それを推進する都市デザイナーの育成と，その分野と立場を確立する必要性もまた強く感じている。